

だれが一番偉いか

マルコの福音書 9 章 33-37 節

はじめに

今日は、「子ども祝福式」があるので、子どもが出てくる聖書の個所を選びました。この個所に出てくる子どもは、「カペナウム」のある「家」の中にいた一人の子どもです。イエス様がカペナウムで立ち寄る家というのは、おそらく弟子の「ペテロ」の家であったと思います。ペテロは結婚していましたので、子どももいたと考えるのは決して不自然なことではありません。ですから今日の箇所、イエス様が「**手を取って**」、弟子たちの「**真ん中に立たせ**」、「**腕に抱いた**」のは、弟子のペテロの子どもであったと考えることもできるのです。

1. 偉くなり、先頭に立ちたい弟子たち

弟子たちは、このカペナウムのペテロの家に来るまでの途中、あることを論じ合っていました。イエス様も、家に入った途端、弟子たちに「**来る途中、何を論じ合っていたのですか**」と尋ねられました。しかし、弟子たちは誰一人、口を開こうとしないのです。弟子たちは皆、黙り込んでしまったのです。なぜなら、その論じ合っていた内容に、「後ろめたさ」があったからです。彼らが互いに論じ合っていたのは、弟子たちの中で「**だれが一番偉いか**」ということであったのです。

私たちクリスチャンも、教会の中で「だれが一番偉いか」ということを堂々と論じることはありません。「誰が一番偉いか」と論じることは、イエス様の教えに馴染まないということが分かっているからです。弟子たちも同じでした。弟子たちも、それを論じることは、イエス様があまりよく思わないということが分かっていたのです。ですから、イエス様に聞かれないように、イエス様から離れた所で、密かに論じ合っていたのだと思います。

「誰が一番偉いか」という時の「偉い」と訳された言葉は、ギリシヤ語の「メガス」という言葉で、「大きい」「多い」「豊か」「偉大」という意味の言葉です。よくスポーツの応援などで使う「メガホン」というのがありますが、あれは声を大きくするものです。その他、大きな都市を「メガポリス」と言ったり、大きな教会を「メガチャーチ」と言ったりします。またマクドナルドでも、ビックマックよりも大きなハンバーガーを「メガマック」と言ったりします。とにかく「大きいもの」が「メガス」なのです。弟子たちは、他の弟子たちよりも「大きい」存在であろうとしたのです。他の弟子たちよりも「偉大」で「優れた」者であろうとしたのです。

私たちも人前で堂々と「だれが一番偉いか」ということを論じ合わなくても、心の中では「だれが一番偉いか」ということをいつも考えているのではないかと思います。心の中で

は、いつも他人と比較して、あの人よりも優れているとか、あの人よりも劣っているとか考えて、少しでも人よりも優れていたいと願っているのではないかと思います。私自身を振り返ってみると、若い頃はそういう願いが一層強かったと思いますが、年を重ねていくらか和らいだとはいえ、そういう願いから、完全に自由にはなつたとは言えません。今でも他の牧師と自分を比較しますし、他の教会とさがみの教会を比較します。また他の家庭と自分の家庭も比較します。妬んだり、羨んだりを繰り返しながら、今でも、少しでも人より「メガス」でいたいと願っている自分を残念ながら見出すのです。決して弟子たちが論じ合っていたことは、他人事とは思えないのです。

2. 皆の後になり、皆に仕える者に

では、イエス様は、そのような弟子たちに何と言われるのでしょうか。35節には、こうあります。「**だれでも先頭に立ちたいと思う者は、皆の後になり、皆に仕える者になりなさい**」。イエス様は決して、「偉くなりたいと思ってはならない」とか「先頭に立ちたいと思ってはならない」とは言われませんでした。弟子たちの、そして私たちの「偉くなりたい」という思い、「先頭に立ちたい」という思いを決して否定されないのです。ですから「偉くなりたい」とか「先頭に立ちたい」という思いは決して悪いことではないのかもしれませんが、大切なのは、偉くなる「なり方」であり、先頭に立つ「立ち方」なのかもしれません。

イエス様は、「偉くなりたい」なら、また「先頭に立ちたい」なら、「皆の後になり、皆に仕える者になりなさい」と言われます（マルコ 10：43-44）。「仕える者」という言葉は、「世話をする者」「給仕する者」という意味の言葉で、時には教会の役員である「執事」と訳されることもあります。「仕える」ということの反対の概念は、「支配する」「横柄にふるまう」「権力をふるう」（マルコ 10：42）というものです。それが、一般的には「偉い人」「先頭に立つ人」の態度なのかもしれません。しかしイエス様は、そうであってはならない、むしろ「仕える者になりなさい」と言われるのです。

このイエス様のことばを読むと、あるエピソードを思い出します。妻の千穂佳の幼稚園の時の話です。千穂佳は幼稚園の時、自分のクラスにいたことができず、いつも年長のクラスにいていたほど、「おてんば」だったそうです。そんな千穂佳の、運動会のかけっこの時の話です。千穂佳は、自分の番になった時、ヨーイドン！の合図と共に一目散に走り出したのは、ゴールではなく、同じレースで走っていた障がいを持つ友だちの所だったそうです。その友だちの所に駆け寄り、その友だちと一緒に遅れてゴールしたというのです。幼い千穂佳にとっては、かけっこで一位になることよりも、障がいを持つ友だちと一緒にゴールすることの方が大切だったのでしょう。本当の意味で「偉くなる」また本当の意味で「先頭に立つ」とは、どういうことを考えさせられます。本当の意味で「偉い」また本当の意味で「先頭に立つ」とは、必ずしも一番になることではないのかもしれません。人々から遅れをとり、あらゆる弱さを持つ人々と共に生きることに、本当の「偉大さ」、本当の「リーダー」の姿があるのかもしれません。

3. イエスの名のゆえに受け入れる

では、人に仕えるとは、具体的にどういうことでしょうか。そのことを教えるために、イエス様は、一人の子どもの手を取って、弟子たちの真ん中に立たせ、腕に抱いてこう言われました。「**だれでも、このような子どもの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。また、だれでもわたしを受け入れる人は、わたしではなく、わたしを遣わされた方を受け入れるのです**」。人に仕えるためには、まず人を「受け入れ」なければなりません。

「子ども」というのは、「偉い人」の対極にあるような存在です。現代の日本では、「子ども」の存在というのは、重要なものと考えられています。しかし当時のユダヤ人の社会では、女性や子どもは人数に数えられないほど、完全に大人の男性が中心でした。子どもは、取るに足らない者であり、身分の低い者、小さい者、貧しい者の代表のような存在だったようです。ですからイエス様はここで、ただ単に「子どもを受け入れなさい」ということを言おうとされたのではなく、身分の低い者、小さい者、貧しい者たちを受け入れなさいと言われたのだと思います。

マタイ 25 章でも、イエス様はこう言われます。「**まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです**」と言われました。ここでの「小さい者たち」というのは、食べ物や飲み物や着る物に困っている貧しい者や旅人、病人や囚人たちです。イエス様は、その者たちの一人にしたことは、「わたしにしたのだ」と言われるのです。今日の聖書箇所でも、イエス様は、子どもたちの一人を受け入れる人は、「わたしを受け入れるのだ」と言われます。イエス様は、子ども、貧しい者、病人など、小さく、弱く、身分の低い者と御自分を重ねられるのです。

子どもというのは、可愛いものです。ですから子どもを受け入れるのは、比較的たやすいことのように思います。しかしイエス様はここで、受け入れにくい存在の代表として、子どもを扱っているのです。当時の男性中心の社会、また特に偉くなろうとする人にとって、子どもを受け入れるというのは、難しいことであったと思います。ですからイエス様は、「わたしの名のゆえに」受け入れなさいとわざわざ言われるのです。普通だったら受け入れられない者を、わたし受け入れなさいということです。

イエス様がここで言われているのは、ただ単に「子どもを受け入れなさい」ということではなく、「受け入れがたい人をわたしの名のゆえに受け入れなさい」ということだと思います。その人を受け入れることは、イエス様を受け入れることになる、その人を受け入れないことは、イエス様を受け入れないことになる、そういう思いで、その人のうちにイエス様を何とか見出して、その人とイエス様を重ねて、その人を受け入れていく、それこそ、イエス様の名のゆえに受け入れるということなのだと思います。受け入れやすい人だけを受け入れて、受け入れにくい人を排除していく、それでは本当の意味で「偉い人」「先頭に立つ人」にはなれないのだと思います。そうではなく、受け入れにくい人を、イエス様のゆえに受け入れていく、それこそ本当の意味で「偉い人」「先頭に立つ人」なのだと思います。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちの心は、知らず知らずにこの世の価値観に支配されています。しかしイエス様が語られた「神の国」の教えは、この世の価値観と全く正反対のものです。この世の価値観に一石を投じる新しさがあります。

私たちは、自分で望まなくても、職場や教会や家庭で先頭に立たされる時があります。その時にどうか、支配するのではなく、仕えることができますように。どんな小さな者でも、どんな弱さを持つ者でも、排除せずに、イエス様のゆえに受け入れていくことができますように。そして小さな者たちと共に生き、本当の意味で人々の先頭に立つ者としてください。

これらの祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。